

令和5年度第2回奥州市総合計画審議会

議 事 録

奥州市政策企画部政策企画課

令和5年度第2回奥州市総合計画審議会 議事録

1 日時

令和6年2月8日（木）13時30分から14時20分まで

2 場所

奥州市役所本庁 7階 委員会室

3 議題

(1) 報告事項

ア 第2次奥州市総合計画後期基本計画における令和4年度成果指標実績値について

イ 第2期奥州市まち・ひと・しごと創生総合戦略におけるK P I 実績値について

(2) 説明事項

第2期奥州市まち・ひと・しごと創生総合戦略の改訂について

4 出席委員及び欠席委員

(1) 出席委員 19名

(1号委員) 遠藤清逸、千葉憲雄、吉田あや子、松平アイ子、高橋一幸

(2号委員) 小岩敬一、千田博文、長野耕定、若生和江、菅原正堯、高野紀代
田中誠、藤原芙美江、早川浩子

(3号委員) 吉村武洋、山本健、清水健司、千田志保

(4号委員) 及川麻梨絵

(2) 欠席委員 4名

(2号委員) 吉田真弓、後藤元夫、神山重久

(4号委員) 佐藤邦江

1 開会

▶ 二階堂政策企画部長

これより、令和5年度第2回奥州市総合計画審議会を開会いたします。

なお、本日は、委員23名中18名（若生委員は途中から出席しているため、出席委員は最終的に19名）が出席しております。

半数以上が出席しておりますことから、奥州市総合計画審議会条例第4条第2項の規定により、会議が成立しておりますことをご報告いたします。

はじめに、奥州市長よりご挨拶申し上げます。

2 挨拶

▶ 奥州市長

ご挨拶の前に、この度の能登半島地震において犠牲となられた皆さまに深く哀悼の意を表するとともに、被災された皆さまへ心よりお見舞いと被災地の一刻も早い復旧・復興をお祈り申し上げます。

本日は、公私ともどもご多忙の折、ご出席いただき誠に感謝申し上げます。

さて、本審議会は、総合計画の推進等に係る重要事項について、皆様よりご意見を頂戴しながら、よりよいまちづくりにつなげていく場としており、前回の審議会においては、第2期奥州市まち・ひと・しごと創生総合戦略の改訂に係る考え方についてご確認いただいたところです。

本日は、市の総合戦略の改訂に係る基本方針や改訂作業スケジュール等をお示したうえで、ご審議いただく予定としています。

限られた時間の中での審議となりますが、より良いまちづくりにつなげるべく、忌憚のないご意見を賜りますようお願い申し上げます、挨拶とさせていただきます。

本日は、どうぞよろしくお願いいたします。

▶ 二階堂政策企画部長

続きまして、奥州市総合計画審議会の会長でございます遠藤清逸様からご挨拶をお願いしたいと思います。

▶ 遠藤会長（1号委員：水沢地域会議）

本日は、お忙しい中ご出席をいただきましてありがとうございます。

開催にあたり、ご挨拶申し上げます。

市長も触れられましたけれども、元日に発生した能登半島大地震から早40日になろうとしております。

復旧作業は緒についたとはいえ、多くの被害者の実情報道を目にするとき、過去の多くの大震災から学んだ経験、実績が随所に生かされていないことが気づかされているのは私だけでしょうか。

活断層の影響でありますけれども、活断層といいますと、奥州市においても大きなリスクを抱えていると言われております。

盛岡近郊の市は矢巾近郊から、奥州市胆沢までの60数キロにわたり、北上低地西縁に断層帯というのが走っておりまして、不気味な思いをしているところでございます。

過度に恐れて萎縮は危険と思いますが、孤立集落等の点では、能登半島大地震と多くの類似地域を抱えている本市としては、対岸の火事とは捉えないと思いますが、平時のときだからこそ、命を守る、インフラを守る、ハザードマップの再徹底を中心に、強化することが大切だと思います。

市民を巻き込んでの現行マニュアル等を再点検し、いつ発生するか知れない事態に備える重要性を、市民の一人として痛感しているところでございます。

一方では、世界的な気候変動の温暖化によりまして、本市における農業、商業をはじめ多くの産業、経済活動への影響も懸念されているところでございます。

本日の会議は、第2次奥州市総合計画後期基本計画における令和4年度成果指標実績、並びに、第2期奥州市まち・ひと・しごと創生総合戦略におけるKPI実績をご確認いただいたうえでの意見交換となります。

また、第2期奥州市まち・ひと・しごと創生総合戦略の改訂説明も予定されております。

時代、時期、市民の期待に応えられるような補強ができますよう、委員各位の積極的なご提言、ご発言をお願い申し上げて挨拶に代えます。

よろしく申し上げます。

3 委嘱状交付

▶ 二階堂政策企画部長

遠藤会長ありがとうございました。

ここで委嘱状の交付を行います。

総合計画、総合戦略などの組み立て、市政の推進にはDXは不可欠となっております。

デジタルの専門家として、現在、市のDXにもご尽力いただいている日本情報通信株式会社の早川様に、新たに委員をお願いすることとなりました。

～委嘱状交付～

早川様、よろしくお願ひいたします。

4 報告

▶ 二階堂政策企画部長

それでは、次第3の報告に入らせていただきますが、奥州市総合計画審議会条例第3条第2項の規定によりまして、会長が会議の議長となる旨定められておりますことか

ら、3の報告と4の説明につきましては、遠藤会長に議事進行をお願いいたします。

なお、本日の会議は15時頃を目途に考えておりますので、あらかじめご了承願います。

それでは、遠藤会長よろしくをお願いいたします。

▶ 遠藤会長（1号委員：水沢地域会議）

報告に入る前に、先ほど市長から委嘱されました早川様を心より歓迎申し上げたいと思います。

今後のご活躍を期待したいと思いますので、よろしくお願い申し上げます。

それでは、次第3の報告に入らせていただきます。

3の報告事項でございますが、1つに、第2次奥州市総合計画後期基本計画における令和4年度成果指標実績について、2つに、第2期奥州市まち・ひと・しごと創生総合戦略におけるKPI実績について、関連がございますので事務局より続けてご説明をいただきます。

それでは事務局の説明を求めます。

▶ 阿部政策企画課長

それでは報告事項（1）の第2次奥州市総合計画後期基本計画における令和4年度成果指標実績値について、それから（2）第2期奥州市まち・ひと・しごと創生総合戦略におけるKPI実績について一括で説明させていただきたいと思います。

資料3をお開きいただきたいと思います。

今回報告いたします総合計画後期基本計画における令和4年度の実績値でございますけれども、後期基本計画で設定いたしました成果指標、それから総合戦略のKPIいずれも令和4年度の実績ということで報告をさせていただくものでございます。

それぞれの施策や基本目標の進捗状況を図るため、令和8年度の目標値に対する達成状況を取りまとめたというものでございます。

総合計画の成果指標に関してでございます。

こちらに記載してございますように、成果指標は総合計画基本計画の施策ごとに設定しており、計画期間の中間年（令和6年度）の実績値にて施策評価を実施し、総合計画の進捗を評価するという流れでございます。

本日は、計画期間の初年度（令和4年度）の実績につきまして、施策評価という意味合いではなく、計画策定時からの指標実績の推移という意味合いで審議会に報告するものでございます。

今回報告する成果指標の総合計画における位置付けにつきましては、資料の図に簡単に示しておりますが、ピラミッドの中段の施策の進捗を測る指標として設定しているものです。

ちなみに、前回の8月の審議会を開催させていただいた際には、一番下の段にござい

まず事務事業に係る指標実績を報告させていただきましたが、今回の成果指標については、その一段上の施策の進捗を図る指標の実績ということになります。

大綱ごとの成果指標の達成状況につきましては、一覧表のとおりとなります。

全部で179の指標項目のうち、現時点で令和4年度実績が測れない16指標を除いた達成状況を、大綱ごとに分類しております。

全体的な考察としましては、後期計画初年度において達成度が100%以上になっている指標が39項目ございましたが、これは基本計画の策定時がコロナ禍だったということもありまして、目標をセーフティーに見積もったことや、単年度の目標として掲げたものが令和4年度において既に達成できたといったケースが該当するものでございます。

一方で、達成度が60%に満たない指標は33項目ございましたが、これら達成度が低い指標につきましては、今後、より実効性のある施策の展開が求められると考えております。

なお、179項目全ての実績値の達成度、実績の推移、目標設定の考え方などにつきましては、資料3の別添としてお示ししておりますが、この場での説明につきましては省略させていただきますので、ご了承いただきたいと思っております。

続いて、まち・ひと・しごと創生総合戦略のKPI実績についてでございます。

まち・ひと・しごと創生総合戦略につきましては、総合計画に定める大綱ごとの施策に対して、人口減少対策という観点から分野横断的に進める取組として位置付けられているもので、3つの人口目標と、4つの基本目標ごとに全部で37項目の指標を掲げて取組んでいるものです。

それぞれの指標の実績値の達成度、実績推移、目標設定の考え方などにつきましては、資料4にお示しをしておりますが、こちらについてもそれぞれの説明については省略をさせていただきますので、ご了承いただきたいと思っております。

以上です。

▶ 遠藤会長（1号委員：水沢地域会議）

事務局から説明がございましたので、これから質問等をお受けいたします。

質問など、ご発言のある方については挙手をいただきたいと思っております。

なお、発言の際には、お手元のマイクをご利用いただきながら、また議事録作成のため、最初にお名前をお願い申し上げたいと思っております。

それでは、皆さんからご意見、ご質問をいただきたいと思っておりますが、ご発言はございませんでしょうか。

吉村委員。

▶ 吉村委員（3号委員：岩手大学）

2つお願いがあります。

1つ目は両事項に関わることですが、このタイミングで2022年のデータを進捗状況として出すのは、やはり遅いのではないかと思います。

前回の8月の段階でこのデータが出てくるのであれば、今このような状況だったということを確認できるわけですが、今の段階で2022年がこうだったということを報告して、今後こうしていきますということを考える指標としては、少し古いのかなと思います。

大変な部分もあるのだとは思いますが、前回の段階ですとか、年内にこういうデータは出されたほうが良いのではないかとというのが1点目のお願いになります。

もう1つは、最後の列に目標設定の考え方が示されているのですが、目標設定の考え方ももちろん重要だと思うのですが、むしろ、この進捗状況に対して行政がどのような判断をされているのか、進捗状況に対するコメントがあったほうが良いのではないかと思います。

目標設定をどのように考えて作りましたというよりは、目標設定に対して現状がどのようになっている、今後どうしていくのかといったことが、前回の事務事業のところではあったと思いますが、そういうことを出されたほうが良いのではないかとというのが2点目のお願いです。

▶ 遠藤会長（1号委員：水沢地域会議）

それでは事務局から回答をお願いします。

▶ 阿部政策企画課長

まず1点目の部分で、このタイミングで数字を出されてもといったところにつきましては、確かに今年度も後半になってきているということをつかえますと、われわれとしても反省するところがございます。

ただ、総合計画審議会にお示しするタイミングというのは、少し難しいところがございます。ご容赦いただきたいなといったところもございますが、来年度以降はなるべく早い時期に対応をさせていただければと思います。

それから、2点目の令和4年度の実績を行政としてどのように捉えているかといった部分でございます。

ここにつきましては、冒頭の説明で少し申し上げさせていただきましたけれども、施策評価という観点からの情報の出し方ではないといったところがございます。中間年の令和6年度に行う施策評価ではその辺をきっちり出させていただきたいと思っておりますが、今回は令和4年度の実績値の推移についての情報提供といった意味合いが強いものですから、その部分については割愛をさせていただいたところでございます。

今後、そういった部分の情報があつたほうが良いというご意見だと思いますので、内部で検討させていただきたいと思っております。

▶ 遠藤会長（1号委員：水沢地域会議）

よろしいでしょうか。

他にございますでしょうか。

5 説明

▶ 遠藤会長（1号委員：水沢地域会議）

続きまして、4の説明の第2期奥州市まち・ひと・しごと創生総合戦略の改訂について、事務局からご説明いただきます。

▶ 阿部政策企画課長

資料5をお開きいただきたいと思います。

はじめに、改訂の趣旨について6点ほど箇条書きで説明を記載させていただいておりますが、今回、総合戦略を改訂するに至りました最も大きな要因といたしましては、令和4年12月に国のまち・ひと・しごと創生総合戦略が、デジタル田園都市国家構想総合戦略というものに抜本的に改訂をされたということが挙げられます。

このデジタル田園都市国家構想総合戦略について少し補足をさせていただきますと、デジタル田園都市国家構想が目指すものとしたしましては、地域がそれぞれ抱える社会課題の解決を図っていくため、自らの地域ビジョンを描き、そのビジョンに向かって、デジタル技術を活用して地方の社会課題解決や魅力向上の取組を加速、深化させるというものであり、地方自治体におきましても、まち・ひと・しごと創生法に基づき、国のデジタル田園都市国家構想総合戦略を勘案いたしまして、地方版の総合戦略を改訂するよう努めなければならないとされているというものでございます。

こうした国の動きを契機といたしまして、都道府県の地方版総合戦略の見直しが進められているところであり、岩手県では昨年12月に地方版総合戦略を改訂したところです。

こうした状況を踏まえまして、当市におきましても、国及び県の総合戦略を勘案したうえで、さらには市の未来羅針盤図、DX全体方針との整合を図りながら、第2期奥州市まち・ひと・しごと創生総合戦略の改訂を図ろうとするものでございます。

次に、改訂にあたっての考え方でございます。

こちらについても箇条書きで記載がございますけれども、項目の1つ目につきましては、先ほども説明しましたとおり、国及び県の総合戦略を勘案するというのが基本でございますが、改訂にあたりましては、デジタル田園都市国家構想の趣旨を踏まえまして、デジタル技術を活用して地方の社会課題解決や魅力向上の取組を加速、深化させるといった内容を加えるということが、見直しの大きなポイントになると考えております。

ここでデジタル技術の活用、所謂DX、デジタルトランスフォーメーションという言

葉が資料の中にも出てくるのですが、こちらについて若干補足をさせていただきたいと思えます。

一般的に民間企業等におけるデジタルトランスフォーメーションとは、デジタル技術を活用して、業務プロセスの改善であったり、製品、サービス、あるいはビジネスモデルそのものを変革し、競争上の優位性を確立する取組を指すとされております。

自治体におきましては、デジタル技術を活用して住民の利便性を向上させるという観点から、行政サービスの改革であったり、業務効率化を図り、人的資源を行政サービスのさらなる向上につなげていく取組を指すとされておまして、今回の改訂では、こうした切り口でもって、見直しを行うことを想定しています。

項目の2つ目でございますが、現行の総合戦略がまだ取組期間中ということ踏まえまして、現行の総合戦略をベースに、基本目標、基本的施策などは踏襲しながら改訂をするということと考えております。

項目の3つ目、4つ目につきましては、先ほど説明した部分となりますので省略をします。

項目の5つ目でございますが、国がデジタル田園都市国家構想総合戦略を推進するうえで予算化しておりますデジタル田園都市国家構想交付金を有効活用したいということで、当該交付金の活用を見込む事業を今回の改訂において位置付けたいと考えております。

最後の6つ目の項目でございますが、現状の総合戦略で設定しておりますKPIにつきましましては、達成状況や妥当性を踏まえた見直しを行いたいと考えております。

ただし、人口目標につきましては、現在の市の人口ビジョンと、最新の社人研の公表しているデータ、これは2023年12月公表のデータでございますけれども、こちらの比較で大きな乖離が見られないということで、今回の改訂では見直さないということにしたいと思えます。

次の大きな改訂の際には、ここは見直さなければならないですが、今回の改訂では見直さないということでございます。

なお、社人研でございますけれども、正式名称は国立社会保障・人口問題研究所という厚生労働省が所管する研究機関でございますして、人口や世帯の動向を捉えて、内外の社会保障政策や制度についての研究を行っている機関でございます。

人口目標の部分についてももう少し補足いたしますと、総合戦略の人口目標については、市の人口ビジョンというものが既に設定されているわけですが、こちらの社人研の最新の公表資料では、令和32年までの将来人口推計が示されているところでございます。

こちらを見ますと、令和12年以降については市の人口ビジョンとの乖離が徐々に大きくなっていくわけですが、次期総合戦略の策定時において、こちらを併せて改訂を行

っていききたい、整合性を図っていききたいという考えでございます。

続いて3の計画期間でございますが、総合計画との一体的な推進を図るため、総合戦略の計画期間は変更しないという考えでございます。

次に改訂後の計画の構成でございますが、現時点で想定される改訂部分については、太字と下線で示しております。

今回の改訂にあたってポイントと考えられますのは、目指すべき方向に新たな視点を追加するということでありまして、この新たな視点というのが、今回の改訂の主要因であります、これまでの地方創生の取組をデジタルの力を活用して加速、深化させていくというものを指すということでございます。

この新たな視点に基づきまして、4つの基本的施策にデジタル技術を活用した取組を取入れるといった改訂を想定しているものでございます。

さらに、基本目標を達成するための横断的な開発プロジェクトといたしまして、未来羅針盤図に基づく各種プロジェクトの位置付けが必要になるだろうと考えております。

なお、この未来羅針盤図につきましては、昨年11月に市政懇談会を開催し、市民の皆様には説明を申し上げているところでございますが、本日、改めて審議会委員の皆様にもご理解をいただきたく、後程、担当課長よりご説明させていただきたいと思っております。

裏面にいきまして、改訂作業のスケジュールでございますが、県の地方版総合戦略の改訂作業が当初の予定どおり令和5年12月で完了しましたことから、市の改訂作業に早速着手することといたしまして、令和6年6月に素案公表、それから8月に成案の公表ということで見込んでおります。

そして、最後は参考までにという意味合いにはなりますが、他の計画等との関連性について記載をさせていただきました。

まず、総合計画に関しては、報告事項の説明でも申し上げましたが、総合計画に定める分野横断の戦略プロジェクト、人口プロジェクトという位置付けになっております。

説明だけでは少し分かりにくいと思われましたので、資料のほうに総合計画と総合戦略、未来羅針盤図などとの相関図を掲げてございます。

次に、人口ビジョンとの関わりでございますが、こちらは先ほど説明いたしましたので省略をさせていただきたいと思っております。

最後に、地域再生計画との関係でございますが、現行の地域再生計画は、企業版ふるさと納税を活用するため、第2期総合戦略に基づいて策定しているものでございまして、今回の総合戦略の改訂に伴い、計画の変更が必要となる見込みでございます。

さらに、先ほど申し上げました国のデジタル田園都市国家構想交付金を活用するにあたりましては、総合戦略への位置付けを踏まえた新たな地域再生計画の策定が別途必要となりますことから、総合戦略改訂後に地域再生計画の策定に着手したいと考えているところでございます。

私からの説明は以上となります。

▶ 梅田未来羅針盤課長

先ほど阿部政策企画課長からの説明の中で、奥州市未来羅針盤図については後程ということでしたので、私のほうからお配りさせていただきました資料と動画を見ていただきながら説明させていただきます。

まず、総合戦略と未来羅針盤図の関係性についてでございます。

未来羅針盤図は、いつまでも住み続けたい魅力あふれるまちをつくるため、奥州市が目指すまちの開発デザインとして制定したものでございまして、これは奥州市のまちづくり構想というふうに言えるかなと思います。

この構想の具体化をしっかりと担保するために、人口減少対策であったり、地方創生のための実施計画的な要素を持つ総合戦略に位置付けまして進めていこうというものでございます。

続きまして、未来羅針盤図の概要について説明をさせていただきます。

お配りいたしました未来羅針盤図の資料になりますが、2ページ目をお開きいただきたいと思います。

人口減少対策問題をはじめとする市が直面する課題を解決いたしまして、持続可能なまちづくりを進めるために、将来を見据えた中長期的で戦略的な方針が必要との考えから、昨年11月に未来羅針盤図を制定させていただきました。

基本コンセプトにつきましては、奥州市の将来を担う人に投資するまちづくり、地域の特徴を生かしたまちづくり、市民の皆様と協働し、民間の資本やノウハウを取入れた官民共創によるまちづくりといたしまして、8つのプロジェクトで構成しております。

なお、各プロジェクトにつきましては、プロジェクトごとに複数の部局で構成いたします専門部会を立ち上げまして、部局横断的に現在進めているところでございます。

それぞれのプロジェクトが相互につながり、補完し合いながら、相乗効果を生みまして、市全体の発展につなげてまいりたいと考えております。

ここから動画を見ていただきたいと思います。

10分ほど動画にまとめてございますが、一部字が小さくて見えにくいところがございます。

動画は、配布させていただいた資料と同じ流れでまとめていましたので、資料と動画を見比べながらご覧いただければと思います。

～動画視聴～

説明は以上となります。

▶ 遠藤会長（1号委員：水沢地域会議）

それでは、皆さんからご質問、ご意見を頂戴したいと思います。

改訂の内容、そしてビデオによる羅針盤図を説明いただきましたが、奥州市にとって

久しぶりに胸がワクワクするようなプロジェクトじゃないかなと思います。

皆さんも何度かご覧になった方がおられると思いますが、忌憚のないご意見をいただければと思います。

どなたかいらっしゃいますでしょうか。

清水委員。

▶ 清水委員（3号委員：岩手県立産業技術短期大学校）

改訂について、文章的にも文言的にも内容は盛り込んであると思うのですが、われわれの今の状況ですと、その中身がものすごく激しく進化していて、その人材をいかに育成、供給するかということでのこの事業が左右されると思います。

そういうところが見えないような気がするのですが、その点はいかがでしょう。

▶ 遠藤会長（1号委員：水沢地域会議）

それでは事務局よりお願いします。

▶ 阿部政策企画課長

今の社会において中長期的な計画を作っても、社会状況が変化するというのはそのとおりでございます。

総合戦略の中で4つの基本目標を掲げておりますが、産技短（産業技術短期大学校）ということであれば、新しい産業の創出、ここに関わる人づくりといったところかと思えます。

今回の改訂の中ではもちろんデジタル技術というのが大きなキーワードにはなるのですが、そういった部分を改めて点検をさせていただきたいと思っております。

今の時点で方向性をこの場では具体的に申し上げられないので大変恐縮ではありますが、いずれ全体的な点検はさせていただくということでございます。

改訂後の計画構成においても、第2期総合戦略の振り返りというものがございますので、ここで一旦点検をしたうえでどういった部分を盛り込んでいくかといった検討を行うことになろうかと考えております。

以上です。

▶ 奥州市長

人材育成のご質問でした。

まず奥州市というのは、当初予算で600億円の予算があって、1,000人の職員がいます。

その中で、効率よくやるというのは1つの大きな目標で、その効率性というのは、おそらく部署、縦割りの組織では無理だろうということで、今回の未来羅針盤図は基本的には横串を刺したプロジェクトです。

それともう1つのやり方として、公的の機関だけではなく、民間の活力を使うということで、リードオフマンを民間に任せるジャンルもあると思っていまして、その1つと

して奥州湖周辺のアウトドアツーリズムの構想をモンベルにお任せしました。

実際はわれわれや関係者がやるのですが、要するに市民の方に参加してもらえりようなプロジェクト作りをしないと、人材育成の問題はどんどん大きくなっていきますので、並行してそれを進めていくという考え方であります。

以上です。

▶ 遠藤会長（1号委員：水沢地域会議）

よろしいでしょうか。

清水委員。

▶ 清水委員（3号委員：岩手県立産業技術短期大学校）

おっしゃるとおりだと思うのですが、情報は日々変わっています。

それに対する教育内容というのが、付いて行けているのか、そういうことをちゃんと見据えたカリキュラムになっているのかということを経々指摘されている状態ですので、文言に整理されてしまうのではなくて、確実に人材育成、そういったDX産業を指導することに目を向けないと手遅れになってしまうのではないかと感じています。

柱の中に人材育成というのを入れたほうが、はっきりするのではないかなと思っています。

分かりやすいのだと半導体産業という話が出ますけど、半導体のメカニズムを正確に説明できる人がいなくなっているという大きな欠点になります。

それと同じで、情報化の分かる人と言っているのですが、情報化の内容に踏み込んだ計画を持たないと、データサイエンスとかいう方向にどんどん進んでいますから、従来の情報処理ができる人というのとは、少し違う状況になっています。

このことについては産業界の方からもわれわれ指摘を受けていますので、その点を重点的に盛り込んだほうが良いのかな、あるいは、具体的に進めていただいたほうが良いのかなと思います。

見直しがきかないのは人の教育ですので、早め早めに手を打ってやっていただければというお願いです。

自分自身も焦っているのですが、こういう機会ですから、お裾分けをしました。

一緒に焦ってください。

▶ 遠藤会長（1号委員：水沢地域会議）

ありがとうございます。

倉成市長。

▶ 倉成市長

貴重なご意見です。

われわれはその最先端の情報教育をやるという立場ではないのですが、1つは先ほど早川さんがやっていますDX行政をやっていくということであって、基本的にデジ

タルは手段ですので、業務改革なくして、DXはないと思っています。

そういう意味では、難しい技術を使うのではなく、一般的に使われている技術を使いながら、業務改革と合わせてやっていくというのが最初の目標ですので、教育現場におけるデジタルの人材育成というのと、われわれがDXを進めるための人材育成というのは、少し質的には違おうだろうなと思っていますが、情報交換をしながら進めていかなければいけない分野であると認識しています。

以上です。

▶ 遠藤会長（1号委員：水沢地域会議）

このDXということについて、先日の事務局との打ち合わせの時にも話したのですが、DXという2つのアルファベットで、全てができるような、ものすごくバラ色の感じを受けるわけです。

ただ、このDXが牙を剥くときもあるのではないかと考えていて、推進する人と付いて行けない人と分断する可能性も十分にあるわけです。

このDXを中心にするのは間違いないと思うのですが、その1つ1つは、できるだけタイムリーなアウトプットと、そのアウトプットが市民の皆さんにどう反映されていくかを見定めながら、どんどんと打ち出していく必要があるのではないかとお話しさせていただいた。

そういった方向で、この夢のプロジェクトを応援していきたいなと思っています。

その他、皆さんからございますか。

若生委員。

▶ 若生委員（2号委員：奥州めぐみネット）

途中からの参加となり申し訳ありませんでした。

少しちぐはぐな意見かもしれないのですが、先ほどの産業技術短期大学の先生からお話のあった人材育成の件について、工業団地を造成し、たくさんの若い人たちをそこで雇い入れますという時に、その企業側で求めているような人材をこの地域でしっかり育てつつ、企業誘致をするということがとても大切ではないかと思います。

その地域運営の中でデジタル化を進めていくということはもちろんですが、先ほどの先生のご意見というのは、地域の若い人たちを育てていくということを中心に据えて、そういう時に民間の力もお借りしながら、情報交換の場をしっかりと作って行って、どんなことが求められているのかというのを常にいろんな立場の人たちが相互に確認しながらやっていくということがとても大事ではないかと思うのですが、いかがでしょうか。

▶ 遠藤会長（1号委員：水沢地域会議）

それでは事務局からお願いします。

▶ 二階堂政策企画部長

特に工業団地の話ということで例を挙げていただきました。

少し私のほうから全体的なお話しをしますと、先ほど市長がお話しましたとおり、また、未来羅針盤図の考え方についてもご紹介したところですが、いずれキーワードはまちづくりは人づくりであるということでございます。

要は、人なくして町はできずというのはもちろんでございますので、そこは、先ほど清水先生からもご助言いただきましたとおり、今度の計画にいかんにか反映できるか、そこは貴重なご意見として検討していきたいと思っております。

人材育成の部分、そこをどう進めるのかということですが、そこはプロジェクトごとに中心に据えながらやっていくということで確認しております。

ただ、清水先生も日々悩んでおられるということですが、先ほどの例に挙げていただいたような工業団地に来る最先端という部分について、市が全てできるかということももちろんそうではないということでございますので、これは清水先生の立場も、それから県、国、その辺と連動しながらやるしかないのだろうなと思っております。

いずれ、教育の部分についてはまちづくりの真ん中というスタンスは認識しておりますので、その辺を捉えて、計画策定や実際の事業を進めてまいりたいと思っております。

▶ 佐賀商工観光部長

基本的には、県、あるいは国のほうで、特に半導体の人材育成については特化した形で具体的に動きが出てきているという部分はそのとおりでございます。

県のほうで、近くではキオクシアですし、当市でいくと東京エレクトロン等の半導体製造装置関連の人材をどのような形で搬出していくかということにおいて、育成機関の体制を含めて検討されているということが具体的にありますので、その部分については連携しながら進めさせていただいているところでございます。

いずれ、市単独でというのは、先ほどの二階堂部長が言うように難しい部分が多々ありますので、県、国、あるいは教育機関等の関係機関と連携しながら、地元で働いていただける人材をいかに地元で育てるか、育成するかということについて、引き続き最優先事項ということで検討してまいりたいと考えているところでございます。

▶ 遠藤会長（1号委員：水沢地域会議）

よろしいでしょうか。

その他ございますか。

長野委員。

▶ 長野委員（2号委員：奥州市体育協会）

人材の育成ですけど、工業高校の統合の話が出ていると思うのですが、統合になった場合に、市としてはやはり奥州市に欲しいのだということが、この人材育成に具体的に繋がるのではないかと思うので、こういう場の話でまともにならないかもしれないが、先ほど先生が言った人材育成の場を作るということには、大事なことはないかと思いま

す。

それから、人口の問題で社人研との乖離が少ないから、今は見直さないことにするというのがありますが、現実問題でこのぐらい人口が減っているのに、奥州市はこのままいくと 10 万人を切って何人になるのだという危機感の数字もないといけないのではないかと思う。

中学校の部活の問題がいろいろとありますが、市内の中学校でさえチームを組めないという現実があるので、他の学校と組み合わせてクラブ活動をするというようなことがこれから出てくる。

やはり具体的な部分がないといけないのではないかと思います。

▶ 遠藤会長（1号委員：水沢地域会議）

2点ありましたけれども、1点目の部分は少し生々しいことですが、事務局で答えられますか。

それでは事務局からお願いします。

▶ 二階堂政策企画部長

工業高校についてですが、水沢工業や他の高校も特色のあるといいますか、現代に合わせるような教育を一生懸命進めていただいておりますが、学科については、これから求められる人材を育成するのに適切なのかということをお県教委で議論されておりました、今度の工業高校の再編については、地元で必要とする人材に配慮し、統合されたら学科も改めるということで検討いただいているところです。

一関工業と水沢工業を統合するというですから、普通に考えれば、真ん中あたりだろうと皆さん思われると思うのですが、マスコミや県の方もいらっしゃいますので具体的にはお話できませんが、いろいろと情報を共有させていただいております。

ただ、やはり地域間の綱引きになっては困るという話は当然ありますので、県のほうでは、第三者機関、不動産や交通の専門家を集めた検討委員会を設けて、今、6ヶ所の候補をテーブルにあげて検討いただいているということでございます。

北上、金ヶ崎、奥州は県内の一大工業地域ですから、そこに目を向けた立地は必要ではないかという話はもちろんさせていただいておりますが、これについては、先ほどからお話しておりますとおり、綱引きにならないようにと県の方からも言われておりますので、そこは気をつけながらやっているということでございます。

それから2つ目の人口の乖離の部分については、先ほどご説明いたしましたとおり、次の計画のタイミングでしっかり、市としてのビジョンを設けながら進めたいと考えております。

以上です。

▶ 遠藤会長（1号委員：水沢地域会議）

よろしいでしょうか。

その他ございますでしょうか。

吉田委員。

▶ 吉田委員（1号委員：前沢地域会議）

未来羅針盤図についてですが、これは現実にやっているものとこれからやりたいというものが混在しているように思いましたが、周産期サポートのところ、民間産婦人科を誘致して、妊婦をサポートするというのが載っているのですが、これは産むところまでという感じがして、やはり大事なのは産んだ後で、若い人たちが安心して、誰かを頼って、助けてもらいながら奥州市に定着するというアフターケアのサポートこそ大事なのではないかと思います。

それからもう一つ、これを見ていると、肝心要の農業のことが載っていないように思うのですが、奥州市だけでなく日本全国でも農業というのは基盤であるので、工業にばかり目を向けるのではなくて、農業にも目を向けるような施策をきちんと考えてもらいたいと思います。

そして、先ほどから人材育成ということを言われていますが、よく若い人が言うのは、働くのはここでもいいかもしれないが、働いた後の楽しい場所がなかなかないということでした。

それは民間の話なのかもしれないが、彼らが住んで本当に良い場所だなと思えるような場所があると良いのかなと思いました。

▶ 遠藤会長（1号委員：水沢地域会議）

3点にわたってご提言がございましたが、事務局から何かありますか。

それでは事務局からお願いします。

▶ 高野健康こども部長

1点目の周産期サポートをしっかりとってほしいというご意見についてお答えしたいと思います。

奥州市では、令和4年4月から市内で分娩できる施設がなくなったということで、それ以降は周産期、それから子育てについて、切れ目ない支援をとにかく充実させていこうということで今取組んでおります。

具体的な話をしますと、昨年度からは高校生までの子供の医療費無償化というのを実現しまして、窓口でも一切払わなくていいような状況を作っております。

それから保育所の保育料についても、今年度から第2子以降は無料ということで、これもさらに広げられるなら広げていきたいなと思っているところであります。

あと、一番力入れているのは産後ケア事業でありまして、今まさにお話のありました出産後については、核家族化のため親がなかなか面倒を見れない状況の中で、出産された子供をどうやって子育てしていくかと悩むケースが増えております。

そういった意味で、宿泊ケアでありますとか、あるいは訪問ケアでありますとか、助

産師が出向いて相談に乗るといったケアの充実を図っておりまして、特に宿泊については、県内で奥州市のみがやっている取組になっております。

まだまだいろんな取組をやっているのですが、いずれ妥協することなく、この部分にどんどん力を入れていきたいと思っております。

以上です。

▶ 倉成市長

2番目のご意見に対してですが、広報おうしゅうの1月号にも書いたのですが、市の施策の3本柱というのは、まちづくりと産業振興と教育だと思っています。

これはあくまでもまちづくりの部分を書いている内容であって、産業振興、農業については、今度の市議会の施政方針演述でも述べますが、農業振興についてこういうことをやっていきたいとはっきり述べる予定です。

あと、先ほどの清水先生の話にも関係しますが、教育の面もこのまちづくりの中では書ききれない内容だと思っていますので、それも別途仕立てて、3本柱でやりたいというのが市の方針です。

以上です。

▶ 梅田未来羅針盤課長

それでは3点目についてお答えしたいと思います。

若い方が定着されるには、仕事の確保という他に、楽しむような娯楽施設等々もないと、なかなか難しいのではないかというようなご意見だったと思います。

そこについては、まさにそのとおりであろうかと思いますが、ただ、誘致といいますか、お店を開くというような部分については、やはり商業関係者の方々、企業の方々の考え方の中で進めていかれるので、われわれとしては、こういったプロジェクトで賑わいを作ることによって、人流が起こった、採算が合うとなれば、そういった施設が続々と生まれてくるのではないかと考えております。

以上です。

▶ 遠藤会長（1号委員：水沢地域会議）

よろしいでしょうか。

あと2人くらいで締めたいと思いますが、いかがでしょうか。

吉村委員。

▶ 吉村委員（3号委員：岩手大学）

2つお願いがあります。

人口ビジョンが2016年3月に策定されて以降見直されていないというのは、やはり古いなという印象を持つので、2016年の段階からどういう経緯があって今に至っているというような評価は、少なくとも今回の総合戦略に書き込んでいただけると良いのではないかと考えたことが1つです。

もう1つが、羅針盤図の観測指標のところではR8が空白になっているのですが、ここをどうやって設定されるのかですとか、進捗管理をどのようにされていくのかということも補足いただけるとありがたいです。

▶ 遠藤会長（1号委員：水沢地域会議）

それでは事務局からお願いします。

▶ 阿部政策企画課長

1点目の人口ビジョンの見直しの部分につきましては、今のご意見をわれわれとしても受けとめまして見直し作業にあたってまいりたいと思います。

以上です。

▶ 梅田未来羅針盤課長

2点目の羅針盤図の観測指標の部分でございますが、先ほど別の委員からもお話がありました、進んでいるところと構想段階のものがございます。

事業の規模感や、どれだけ市が投資するか等々も含めまして、そのところが明らかになってから観測指標は埋めてまいりたいと思っております。

進捗管理につきましては、庁内の人口プロジェクト推進委員会というところで進捗管理をしながら、適宜審議会の皆さんにも状況をご説明していきたいと考えております。

以上です。

▶ 遠藤会長（1号委員：水沢地域会議）

よろしいでしょうか。

大変申し訳ないですが、あと1人で終わらせたいと思いますが、いかがでしょうか。

千葉委員。

▶ 千葉委員（1号委員：江刺地域会議）

羅針盤図の中で、江刺地域の企業誘致による雇用者の増加という喜ばしい話があり、確かに今岩谷堂地区には、何が建つのだろうというようなものがあったり、アパートが次々に建っていますが、これによって非常に困っているのは、自治会に入らないというのがあります。

自治会で管理しているゴミステーションに自由にごみを捨てるのですが、このごみの捨て方について市の条例は何もなく、各自治会での管理に任せているという状況です。

居住地を民間で作っていただくのは良いのですが、このことについて、何か行政でも対応いただくと大変ありがたいと思っています。

各自治会で1軒1軒回って入ってくださいというのは、なかなかままならない現状がありますので、その辺もご検討いただければと思います。

▶ 遠藤会長（1号委員：水沢地域会議）

1点ですが、事務局で回答できますか。

それでは事務局からお願いします。

▶ 千葉協働まちづくり部長

地区センターを中心に、振興会活動とか各自治会のコミュニティー活動などを担当している部署でございます。

委員のご指摘のとおり、水沢の市街地や、江刺に新しく転入してきた方から、自治会に入るの強制なのですかとか、逆に今まで入っていたが辞められないのですかとか、そういったご相談をここ数年で少しずつ受けています。

ただ、先ほどのごみの関係であったり、子供会活動とか様々なコミュニティー計画の中では、同じ地域で一緒に暮らして支え合っているということを、強制はできませんが、お話はさせていただいているところでございます。

いずれ、ごみを捨てるというのは生活に欠かせませんから、そういったお世話にもなっているという部分をご説明して、ご理解をいただいているという現状であります。

また、今後江刺に1,000人近い方が住むとなれば、しっかりと住民登録をしていただきまして、市民だということをはっきりして、自治会活動にも参加してもらおうということかと思えます。

仙台とか学生が多いところでは住民登録をしないで住んでおり、ごみの事とかいろんな活動をしらないという問題もあると聞いておりますので、しっかりと手続きをさせていただいて、その地域で一緒に生活、暮らしていただくということを地道に働きかけてまいりたいなと思っております。

以上です。

▶ 遠藤会長（1号委員：水沢地域会議）

大変難しい問題で、私も常盤地区にいますのですが、往々にして、振興会、町内会の集まりがあると必ず出てくる課題です。

特に町場でいうと、少し広い道路というのは通勤経路ですが、その途上にゴミステーションを置いていて、そのステーションは町内会の各班で管理しているという慣わしがあります。

市に問い合わせると、基本的に市民はどこゴミステーションにごみを捨てても良いと言われるが、それを町内会の班に言うと、私たちが管理しているのに、何でそこに誰かも分からない人がごみを置いて行くのだと怒るわけです。

区長さんと相談しながら、しっかりやっていくしかないのかなという気はしてなりません。

予定された時間となりましたが、多くの委員からご質問、ご意見いただきまして、有意義な時間とすることができました。

ありがとうございました。

これもちまして、3の報告、4の説明については終了したいと思いますので、事務局にお返しします。

6 その他

▶ 二階堂政策企画部長

遠藤会長、議事進行ありがとうございました。

事務局からの報告事項等は以上でございますが、その他皆さんからご質問、ご意見等がございましたらお願いします。

吉田委員。

▶ 吉田委員（1号委員：前沢地域会議）

違う話ですみません。

下（市役所1階）に、大谷翔平のパネルや記事がいっぱいあるのですが、場所が少し暗くて、そこに来て一生懸命写真を撮っている人がいたのですが、もう少しライトが当たる場所や明るいところに移してもらうと良いのではないかと思います。

▶ 二階堂政策企画部長

確かに1階は暗い感じがするというのは、そのとおりだと思います。

せっかく良いニュースで誇らしいことでございますので、そこは協議してまいりたいと思います。

ご意見ありがとうございます。

その他、皆さんからございますでしょうか。

7 閉会

それでは以上もちまして、令和5年度第2回奥州市総合計画審議会を閉会したいと思います。

皆様お忙しいところご出席いただきまして、大変ありがとうございました。

今後ともよろしく願いいたします。